

## 研修実施報告書

研修名

TEACCH プログラム「に・が・で・を」つないでいく

法人名

社会福祉法人緑樹会・社会福祉法人八ヶ岳名水会

開催年月日

令和7年12月14日

開催場所

甲斐駒センターせせらぎ 山梨県北杜市武川町牧原1243

研修の目的

障害福祉の研修においては、しばしば各領域・成長段階において必要とされる高い専門性について学ぶ機会として開催される事が多いが、私達支援者が支えていく当事者の人生は、年齢を重ねていくものである。

高い専門性の支援が各成長段階においてそれぞれ適切に提供されるのと共に途切れなく提供されていく事が必要不可欠である。

今回は、この横割りの視点からではなく、1人の障害を持つ人々を支える観点に基づいて研修を開催する事で、地域全体で取り組む視点を培いたい。

現状領域毎に、醸成された支援の累積を実感する半面、領域や職種を通した一体的な支援への取り組みや、その意識付けには未だ余地を残している。

今回の研修を通して、佐々木先生による講演から実践報告。そして研修の最後にグループディスカッションを行う中で、各領域にある「点」を繋ぎ「線」とする為の機会としたい。

そしてその「線」が「面」となって広がっていくため、この研修を通して出来た繋がりと学びが基盤となる事を期待し開催する研修である。

研修の内容

害を持つ人々の生活は、日本が障害者権利条約へ2013年に批准して以降より豊かな地域共生社会へ向けて日々取り組まれて続けているが、それでも尚障害を持つ人々は現代社会において、生きにくさを強制されている社会であるのが現状である

社会で生きにくさを持つ人々を支えていく為には彼らが生まれて、青年期へ。そして最終的な生の終わりへ向かっていく中で各人生のステージごとに支える領域において専門性の高い支援が、縦割りを超えた、連続性を持ちながら伴走される一体的な支援が人生の共になければならない

しかし現状山梨県では、各領域毎に醸成された支援の累積を実感する反面、領域や職種を通した一体的な支援への取り組みや、その意識付けには未だ余地を残している。

県全体の取り組みとしても未達であると体感する中で、尚の事地域で実践するプレイヤーとしては痛切に感じるものである。

地域連携を考える際には、共通項が必要と考え、

今回は TEACCH プログラムをテーマとして開催

前後の言葉を接続詞「に・が・で・を」で繋ぎつつ

多様な視点から地域・多職種連携を考える為のきっかけとなる研修とする。

#### プログラム 1

「領域で分断しない一体的な支援の為に必要な第一歩」 佐々木康栄氏 120分

TEACCH プログラムに触れながら、関わる方の人生に点ではなく線として寄り添い支援と暮らしと地域を線で繋いでいく為のヒントを頂戴するものである

#### プログラム 2

「TEACCH をつないでいく」

プログラム 1 からパスを受け取り、地域にて実践を日々行い続けている皆様に登壇頂き

これからの繋いでいく為、難しさも楽しさも共有しながら「どこから始めるか」を一緒に考えるプログラム 「成人/行政/幼保/児童」を領域とする 4人が登壇

実践報告を聞いたのち、コーディネーターと共にヒントとなるような事を考える

#### プログラム 3

研修を通して学んで来た事を踏まえて、職種・年齢・地域を飛び越えて、繋がっていく為の

グループディスカッションを行う。社会全体の問題から地域の問題。そしてここではより具体的な話題から「明日から出来る事」を具体的に考えていく中で「お互いに顔が分かる地域」を創っていくための基盤となる為に行うワークである

クロージングトーク

最後に佐々木先生から、研修を通しての要点を整理してもらい、ポジティブな感情で

今日得た学びと関係性を持ち帰ってもらう為のプログラム

## 研修の成果（今後地域に活かされる点を必ず記載）

今回開催された研修の参加者内訳では、県内における峡北圏域と呼称される市町村からの参加が全体の7割を占めている点。そして参加者は多職種が参加し、福祉職では無い地域の住民も広く参加している点。上記2点において、地域連携及び多職種連携における関心度の高さを再認識するものであった。

グループディスカッションにおいて、「明日から出来る事」を地域や職種を跨いで時間をかけて具体的に検討する事で、社会の問題として捉えるだけでなく、より個人単位で考え、実践に結び付くものとなった。

話し合った内容も重要であるが、グループ自体を少数単位且つファシリテーターを原則2名配置する中で、「顔の分かる」ネットワーク作りにも寄与するものであった。

今回企画した研修にて、受講した人材が再び地域へ戻り、実践を行う際、今回の研修で得た学びと「顔の分かるネットワーク」は非常に有効に作用するものである。

追跡調査は3月に実施

結果は当法人のHPにて公開予定。

## 研修の参加者

【全体人数】 82人

【当該法人の参加人数】 緑樹会10人 名水会5人

【当該法人以外の参加人数】 67人